

最後の挽回・高1の夏

2022. 7. 6 (水)

同じラインからスタートした高1の春

高校入試によって、1つの高校には、レベルに近い生徒が集まります。
中学校のように、学力差が大きくはありません。
そして、高1の春、ほぼ同じレベルでスタートします。

それが…

高3も終えようとしている頃…

ある人は、地元の大学の医学部に進学し、
ある人は、隣の県の国立大学の文学部に進学し、
ある人は、東京の名門私立の理学部に進学しました。
そして、生徒Aは、地元の専門学校を補欠で入学できました。

「高1の春、ほぼ同じレベルでスタートした」はずではなかったのですか？

高1の春、何が起きていたのか

生徒Aの高1の春…

地元のトップ高校に合格できて、それはもううれしくて、うれしくて…
中学の進路指導の先生に「ちょっとねえ…」と言われて、半ばやけくそで受験したものだから
合格通知を受けとったときのうれしさはもう…

そのまま頑張れば、今頃は最低でも、地元の国立大学には進学できたとは思えるのですが…
うれしくて、うれしくて、高1の入学前から、桜の木の下をうろつく日々が続きました。中学の
とき、がまんしていた映画も見まくりました。いままでできなかったゲームなどはやりまくった
のは当然のことです。

部活の野球は、球が見えなくなるまでやりました。
家にかえれば、ただ、ただ寝るだけでした。

…と、楽しい日々の後、1学年最初の定期テストがあり、答案が返ってきました。
「え?!、うっそ~!」

答案紙の右上に **29点** と大きく朱記されているではないか!

確かに、テストを受けているときは、なんか解けない問題がいっぱいあるなどは思っても、なん
とか書けたから、まあ、少し点は低いかもな…。70点はいくだろう…

ちょっと遊びすぎたかな、次のテストで、がんばろう。

と捲土重来を誓って授業に出た。

「え?!なに?なんなの?」

先生の言っている言葉の意味がさっぱりわかりません。黒板の数字の列は、見知らぬ国の”外国語”です。

教科書は、もう3分の1くらいのところまで進んでいます。

「なんとかしなければ、なんとか…」

当然、塾へいきます

というわけで、塾へいくことにしました。

もちろん、講義塾などではついていけません。

個別指導で、1対1という塾へいくことにしました。

目の玉が飛び出るほどの授業料です。

親からは「お金がかかっているのだから、がんばってね。」とプレッシャーをかけられていて…

個別指導塾の先生は地元の大学の大学生ということですが、どうも話がよくわかりません。

よく「こんなのあたりまえね。つぎ、いこ!」いいつつ、どんどん先へ進みます。

指導内容の進度のノルマがあって、生徒には学習を先へ進ませないといけならしいのです。

次の定期テストにはなんとしてもいい点をとってもらわないと塾の評判にかかわるからといひます。テスト範囲はすべておえなければならぬといひて、どんどん先へ進みます。

「わかりますか?」ではなく、「わかっていますね!」で次の問題へ進みます。

まあ、それなりにテスト範囲はすべて勉強したのだからと、少しだけ期待をもってテストに臨みました。

答案を受けとるのがこんな怖いものだと、生まれて初めて知りました。

19点!

衛星授業に変えました

この塾がだめなら次の塾、というのが世の中というもののようです。

どの単元からでも復習できるという衛星授業を受けることにしました。

1年の最初からやるつもりです。

学習プログラムは細分化されており、苦手なところだけの授業を受講できるようです。

「苦手なところねえ?」—それがわかれば自分で勉強できるがね…

初めて受ける衛星授業…

なんか、このブースというのですか、にわとり小屋のような囲いの中につめこまれて、知識という餌をついばむにわとりのような…

”餌”は、つぎから次へと画面から自動的に送り出されてきます…

わたしはそれらを、ただただ食べ続けるだけです。

なんか、”飼育”されているようだな…

これが第1印象です。

「こんにちわ〜っ、みんな！」
わたしねえ、あなたのこと知らないの。なんか、なれなれしいのが気にさわる。
授業は…
学校の授業と同じだ。
板書にいてねいに解答を書いているよ。
そんなの早回しすればいいのに。
「時間=いくら」で受講しているんだよ、まったく。
とかなんとか考えていると、突然、講師の幼い頃の話がでてくる。
え？数学の授業じゃないの？
なんで、講師の小学校の先生の話がでてくるの！
そっか、これがかの有名な「脱線」というやつか。
こんなのにも金を払わなければならんのか。

たっかい入学金と1年間の受講料を払っているから、やめるにやめられない。
この線で頑張るしかない。
ブースという”囲い”の中で、日々、”知識”という餌を食べつづける”にわとり”をして過ごしました。

3年間がすぎて…
今、彼は、某専門学校の机の上で、講師の先生のお話を子守歌にして”うとうと”して満ち足りた時間を過ごしています。

どこで歯車が狂ったんだろう？

どこで歯車が狂ったんだろう？

あの高1の春、合格通知を受けとった日です。
他の人達は、塾の「春期講習、高校数学の先取り学習ゼミ」の申込みにいていたのです。
春休み中には、塾で、高校数学1年の1学期分くらいは終えていました。
そのまま全速力で走り続けます。

遅れなんてすぐ取り返せるさ、と中学数学の気分でたかをくくって臨んだ高校1年の春の授業のスピードに愕然としたのをぼんやりと思い出しました。
復習しても、復習してもその何倍もの速さで授業は先へ進んでいきます。
周りに人達を見れば、なんの違和感もなく、平然とノートをとり、先生の質問に答えています。

その日以来、先生に当てられるのをびくびくするだけの数学の授業となりました。
課題は答えを写すだけなので、細かいところを突つかれると答えられません。
「この式がなぜ、次の式になるのかね？」
そこ、ねえ…解答のミスプリントなの！」

ただ、ただ、黒板の上のスピーカーを見つめながら、チャイムの鳴るのを待ち続けました。

最後の挽回，夏休み

ただ，挽回が可能な時期がありました。
学校の授業が停止している夏休みです。
ここで，全力で追いかければ，追いつくはずです。

が，事態はそんな簡単にはいきませんでした。
夏期講習というのがあります。学校でです。塾ではないですよ。
授業は進みます。猛烈なスピードで進みます。
3年生の夏休み前には，3年間の勉強を完了する予定だからだそうです。

夏休みには，学校の夏期講習をさぼっても，専門塾で，大学生ではなく，専門の先生から個人指導を受けるべきだったのです。
1年生の最初から丁寧に学習を積み直すべきだったのです。
絶対に追いついたはずですよ。

衛星授業は，あなたのことなんか考えてくれません。
あなたが今，文字係数の平方完成で，グラフの頂点のy座標の求め方にうろうろしていることなど衛星授業側ではわかりません。

「あなたの今」を考えて指導してくれる専門の先生に教えてもらうべきだったのです。

★
高1の夏
専門の先生に
個人指導を受ける
これが挽回の定理です

指導歴50年の専門の先生が指導する数専ゼミの数学教室です

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: (023)633-1086 / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp